

○豊北中学校の合気道授業計画（令和3年度）

		1・2年生	3年生
1時間目	教諭 (+T2)	・事前アンケート ・授業の受け方 ・武道・合気道とは	・今後の授業の流れ説明 ・帯の結び方（道着の着方） ・正座・礼の仕方
2時間目		・授業の受け方 ・帯の結び方	・半身構えの姿勢 ・後ろ受け身の導入から練習
3時間目	教諭+ 外部指導者	・外部指導者による講話 武道・合気道とは ご自身の体験談 正座や黙想について	・教諭と外部指導者による演武 ・受け身の披露と助言 ・武道における気の体験 ・距離を取った角落としての体験 練習
4時間目			
5時間目	教諭 (+T2)	・3、4時間目の活動のビデオを見て振り返る ・事後アンケート ・感想記入	・3、4時間目の活動のビデオを見て振り返る ・事後アンケート ・感想記入 ・受け身のテスト
6時間目		・帯の結び方と後ろ受け身のテスト ・角落としての完成	

■シリーズ■ 中学校武道

授業の充実に向けて

160

つまづきをどう克服したか<sup>⑤3</sup>  
（コロナ禍で実践する外部指導者を活用した非接触型合気道授業）

山口県下関市立豊北中学校

中学校での武道授業が必修化となつて10年が経過した。その節目の中で多様な武道種目に触れるために、さらなる武道授業の充実が求められている。その手段の一つとして、専門的な知識を持つ外部指導者との連携体制の確立が重要視されている。また、新型コロナウイルス感染者数の高止まりから、感染対策を講じながら武道授業の内容を再検討していく必要がある。

本連載ではこれまでも外部指導者の活用例やコロナ禍での授業を紹介してきた。今回は、令和3年春に新任の保健体育科教員として豊北中学校に赴任した藏田春瑠<sup>はるる</sup>教諭が合気道の経験を生かし、コロナ対策を十分に講じた合気道の授業を本誌記者が取材した。

1  
合気道授業  
実施の経緯

豊北中学校は山口県北西部に位置する豊北地区（旧豊北町）にあり、全校生徒109人、各学年1、2クラスの小規模校である。同地区には以前、五つほどの中学校があったが、現在は同校のみとなり、学区が非常に広いのが特徴だ。

藏田教諭は赴任したばかりの昨年4月から武道授業で合気道を行いたいと考えており、そこか

ら積極的に矢田部敏夫校長への授業提案を行い、1学期中には校長から授業実施の許可をもらうことができたという。藏田教諭は小学校2年生から高校生まで週3回、同県柳井市にある合気道柳井道場に通い、初段の有段者である。

矢田部校長は、合気道授業が実現したのは藏田教諭の意欲だったと語る。

「山口県では柔道や剣道の授業が一般的で、合気道授業は大変珍しいと思います。本校でも以前から柔道の授業を実施していましたが令和2年度はコロナの影響で授業を中止しました。そして3年度

は、藏田教諭から合気道の授業の提案を受けました。藏田教諭は新しい視点を持ってチャレンジしようとする意欲にあふれ、非常に熱心に取り組んでいたため、私もその熱意に押されて合気道授業をやってみようと思いました。さらに藏田教諭から、生徒にはより専門的に合気道に触れてほしいので、外部指導者を呼びたいと申し出がありました」

これを受け、藏田教諭が通っていた柳井道場の副道場長を務める地方公務員の関戸遊野<sup>せとゆうや</sup>氏が外部指導者として授業を支援する運びとなった。

しかし、授業が決定してからいくつもの課題点が浮かび上がったと藏田教諭は振り返る。

「合気道授業の実践例が少なく、計画を立てるのが大変でした。さらに、稽古（終わりのない修行）と授業（学習指導要領に基づいた習得内容がある）の違いや、『見て学ぶ』武道を『言葉で教える』難しさをどう克服するか、合気道を初めて見聞きする生徒にどのように興味を持たせるかなど、悩み

は尽きませんでした」

課題を抱えていたのは藏田教諭だけではない。今回外部指導者として授業を教える立場となった関戸講師もいくつかの課題があったと話す。

「今回、初めて外部指導者として中学校で教えることになり、いつもの稽古とは違う、授業としての稽古を組み立てるということが大きな課題でした。さらにコロナ禍が収まらない中で授業のため、非接触で学習する必要があるました。合気道は基本的に接触を伴う種目のため、実施に向けての準備や内容を考えるのに苦労しました」

これらの課題について藏田教諭や関戸講師はどのように解決したのだろうか。

2  
授業の内容

記者は2月下旬に同校を訪問。2年生の全6時間（2、3月）の授業のうち、3、4時間目の授業



竹刀を手のひら同士で支える演習



1列ずつ受け身の確認を行う



合気道での手の使い方の学習



生徒の前で講話を行う関戸講師（右）



隅落としの練習。竹刀で相手を引きつけて前に押し出すと（写真左）、相手は竹刀に押されるように後ろに倒れて受け身をとる（同右）



関戸講師と藏田教諭の演武を見つめる生徒たち

を取材した。生徒（男女計20人）は学校内の武道場で上着のみ着替えて授業が始まった。全員で礼を行ったあと、関戸講師による武道の説明があった。

「本来、武道は侍が極めていた技が受け継がれたもので、必ず師匠と弟子の関係により伝承されます。よって今回、私は皆さんの師匠として授業を行いたいと思います。武道を学ぶには大きな難しさがあります。私も合気道を学び始めた頃、師匠からたくさん言葉以外でご指導いただきましたが、ほとんど理解することができませんでした。

でした。そこで私は師匠のお供を勤めさせていただき、それによって師匠のご指導が理解できるようになりました。皆さんも自分から授業に耳を傾け、意識を集中すればその分だけ師匠が話した内容が理解できると思います」

「次に『武』という文字についてお話しします。『武』という文字は相手を倒すというイメージがあると思います。しかし、本来の意味は異なります。武という文字を分解すると『戈』を『止める』と書きます。つまり喧嘩争いが起こらないように整えてしまうのが真の『武』になります。武道を学ぶ上でその部分を頭に入れていただきたいと思っています」

次に、武道で大切な体の重心の取り方や体幹を鍛えるトレーニング、正座で姿勢を整えるトレーニングを行い、体捌きでの手首の使い方などについて説明した。

その後、関戸講師が「受け」（技を受ける側）、藏田教諭が「取り」（技をかける側）となり、座り技と立ち技を披露した。関戸講師をスムーズに投げる藏田教諭の様子

に生徒たちから拍手が沸いた。

その後、前回の時間で学習した後ろ受け身の練習を行った。まず、横4列に生徒が分かれると藏田教諭が一度ゆっくりとした動作で手本を見せ、その動作を各々が練習。ある程度復習できたら、一列ずつ受け身を行い、関戸講師はその動作を確認した。関戸講師は「皆さん、短期間で形になっていくと思います。受け身は身の安全を守る上でとても大切です。転びそうになった時、受け身を覚えていればとっさに体を丸くして頭を守るができます」と語り、3時間目が終了となった。

4時間目はまず、相手の動きに対応すること、すり足を学ぶ演習を行った。2人が竹刀の端と端を手のひらで支え、1人が後ろに下がって相手を引きつけ、もう1人はこの動きに合わせて竹刀を落とさないように前に足を出す。この動きを何度か学習した後、応用として隅落としの基本練習を行った。両者が竹刀の柄の部分をつた状態で立ち、1人が竹刀を引いて相手を引きつけ、続けて竹刀を

前に押し出す。もう1人は竹刀に押される形で後ろ受け身を行う。生徒たちは関戸講師や藏田教諭からアドバイスをもらいながら演習を行った。

最後に関戸講師がまとめを行い、授業は終了した。

### 3 課題解決のために

今回の授業で、印象的だったのは、関戸講師と藏田教諭の授業の流れがスムーズなことである。これは関戸講師との綿密な打ち合わせと関連資料の収集にあったと藏田教諭は話す。

「昨年11月下旬以降、何度も電話やメールで関戸講師とやり取りを重ね、年明けと2月上旬に対面で稽古を含む打ち合わせをしました。また、過去に実施した学習指導案や柔道の指導案、さらに日本武道協議会からいただいた資料も活用して指導計画を立てました」

授業を行う上での課題については、専門用語を使わず、生徒がイ

メージしやすい言葉で伝えたり、タブレット端末を用いて資料を提示したり、藏田教諭や関戸講師が手本を見せたりすることで解決した。さらに、授業の初めにはスポーツと武道（合気道）の違いや稽古の難しさをあえて伝え、生徒たちが非日常的な活動を体験できていると実感させるようにしたという。非日常的な活動をすることは戸惑いがあるものの、内容を分かりやすく説明すれば興味が変わるきっかけとなる。藏田教諭の計画できたと言えるだろう。

関戸講師も本授業計画に当たり、多くの資料を確認したという。「中学校で教えるのが初めてだったので、どの程度生徒を指導するべきかについて綿密な打ち合わせをしました。私は学習指導要領についての知識がありませんが、藏田教諭がカバーしてくれたので、授業が実施できたと思います。また、日本武道協議会発行の指導書も活用しました。生徒に武道を教える上でこういった話をすべきか、どの程度教えて良いのかとい

う点で指標としました。けがをしない授業の組み立て方も指導書の解説は非常に参考になりました」

もう一つ印象に残ったのは、コロナ対策がしつかりと考えられた点である。それは、基本的に生徒同士が直接触れることのない「非接触型」の授業が展開されていたことである。これについて関戸講師は次のように語る。

「コロナ禍で実施することを考えると、技の習得よりも基本部分(体幹のトレーニングや体の軸の確認、受け身など)に重きを置いて授業を組み立てました。動きはないうえに、武道具や合気道を知ってもらうための講話を多く取り入れ、武道とはこうしたものだと知ってもらえる授業を心がけました。ただ、技の部分もないと合気道の醍醐味ごみが味わえないので竹刀を使って動きの学習も加えました」

確かに記者が今まで見てきた武道授業に比べると、動きは少ないと感じた。しかし、コロナ対策とけがの防止を考慮しつつも、合気道について生徒たちに知ってもらう工夫が綿密に練られていること

が伝わった。それは生徒自身も感じていたようだ。

#### ●合気道授業に対する感想

「今まで合気道に触れることがなかったのですが、最初はけがをしそうで怖いと感じていましたが、関戸講師や藏田先生の言うことをしっかり聞いて安全に授業に取り組みるとわかりました。今回、授業で合気道を知ることができて良かったですと感じました」(2年・女子)

4

### 授業のまとめと今後の課題・展望

今回の授業を実践した感想を藏田教諭と関戸講師に伺った。

#### ○藏田春瑠教諭

「関戸先生に来ていただいた際の授業の様子を撮影し、後日生徒に見せました。生徒たちは、熱心に自分や級友の稽古の様子に注目し、楽しんで授業を振り返っていました。各クラス担任からも、『生徒の日記に合気道のことを書かれてありましたよ』と報告を受けました。準備や当日の進行には

つまずくところもありましたが、生徒の記憶に残る授業だったのだと感じ、大変嬉しいですね。

合気道の授業を通して生徒たちには自分や他者を大切に、心身ともに自分を守る姿勢や動きを学んでもらえたいと思います。コロナの状況にもよりますが、令和4年度の2・3年生には技や前受け身に挑戦させたいです。また、教材として扱えるような指導例の作成を考えていきたいです」

#### ○関戸遊野講師

「授業は難しい内容にもかかわらず、生徒たちは集中して取り組んでくれたと思います。全員の意識がこちらに向いているのを感じました。授業を通して、合気道は通常では感じることのできない『気』や『心』を学べることを分かってもらえたらと思います。武道における礼や黙想、合気道の動きなど、本を見ただけでは分からない部分を実際に見て体感してもらえたいように思います。」

課題としては、外部指導者を務める場合、仕事を休むことになら

り制約があり、その労力も必要と感じました。私は今回、副業が難しい公務員であるため無報酬のボランティアとして授業に携わりましたが、外部指導者の休暇取得や報酬などの待遇面の制度整備が必要だと、外部指導者の活用が広がるのではないかと思います」

武道授業を初めて受け持った藏田教諭と初めて外部指導者を務めた関戸講師。両者が武道授業未経験の段階から念入りに打ち合わせと資料集めを行い、短時間の授業ながらも生徒に合気道を知ってもらえる、まとまった授業を展開していた。また、コロナ禍で授業を実施するという面においても計画段階から工夫を重ねることが分かった。これは両者に合気道授業に対する熱意と努力があったから実現できたのだろう。

安全かつ、生徒にしっかりと武道を伝えるためにどのような授業内容を展開すべきか。充実した武道授業を実現していく上で、豊北中学校の取り組みは大いに参考になるのではないだろうか。

(文・和久田侑里)